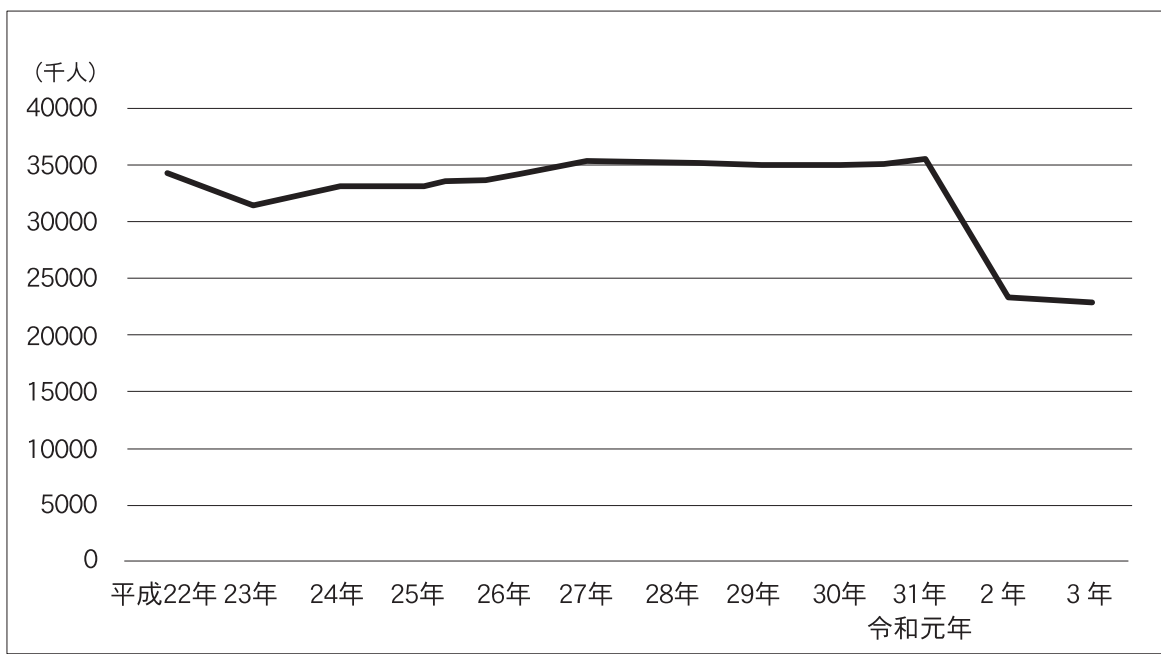


# 東北6県の観光入込客数統計（令和3年）

東北6県の令和3年1年間（1～12月）の観光入込客数が各県から発表されている。東日本大震災の発生で落ち込んだ後、回復の途上であったが令和2年からのコロナ禍でその当時を超える伸び込みを各県とも示している。各種キャンペーンの効果などで3年は前年を上回る数字を残した県もあるが、全般的に厳しい状況だ。

## 青森県



青森県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」から

観光入込客数の延べ人数は対前年比97.4%、対令和元年比64.4%の228,355人。実人数は対前年比117.8%、対令和元年比91.7%の1,319,997人。

6の地域別では、延べ人数、三八地域（八戸市など）が61,544千人（前年比97.1%）と最も多く、次いで上北地域（十和田市など）が46,979千人（同96.6%）、東青地域（青森市など）が41,777千人（同98.4%）など。

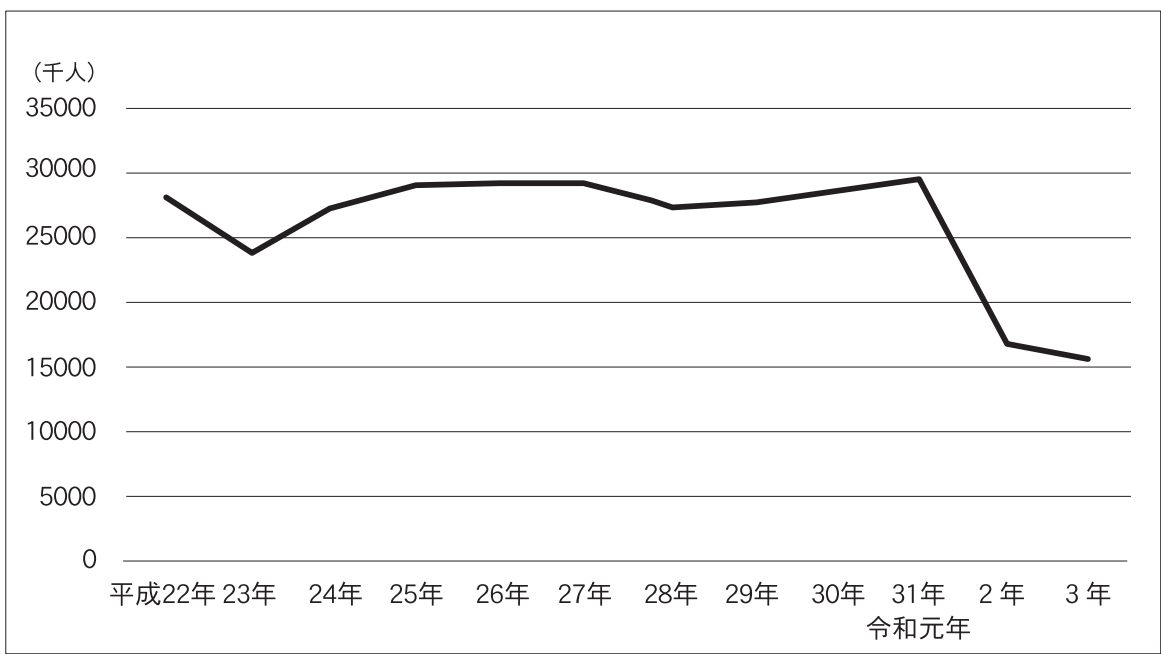
日帰り、宿泊別では、実人数、日帰りの客が対前年比120.7%、対令和元年比100.0%の1,009,979千人。宿泊客が対前年比109.3%、対令和元年比72.1%の309,987千人。

県内客、県外客、訪日外国人の別では、(同)、県内客が対前年比131.5%、対令和元年比119.7%の954,481人。県外客が対前年比93.4%、対令和元年比59.7%の364,111人。訪日外国人が対前年比19.7%、対令和元年比2.5%の8千人。

観光消費額は総額で対前年比109.2%、対令和元年比69.4%の132,500万円。

費目別では宿泊費が対前年比117.1%、対令和元年比75.8%の48,900万円。

## 岩手県



岩手県商工労働観光部観光・プロモーション室「岩手県観光統計概要」から

観光入込客数（延べ人数）は15,607,559人回。前年の92.4%と、約9割の入り込みとなっている。四半期別に見ると、1～3月期（冬期）は前年比60.3%の3,055,808人回、4～6月期（春期）が同157.5%の3,885,000人回、7～9月期（夏期）が同87.0%の4,167,333人回、10～12月期（秋期）が同98.7%の4,997,407人回。

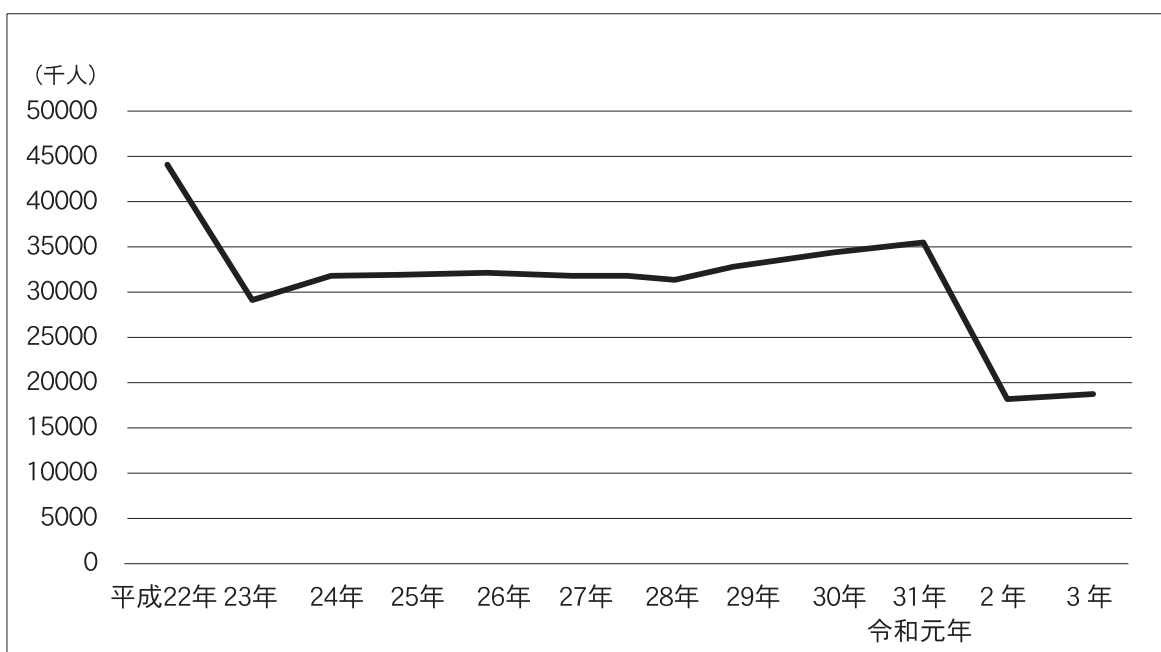
4の地域別に見ると、県央エリア（盛岡市、八幡平市など）が同85.0%の4,558,101人回、県南エリア（一関市、花巻市など）が同94.6%の6,099,954人回、沿岸エリア（宮古市、陸前高田市など）が同94.7%の3,172,878人回、県北エリア（久慈市、二戸市など）が同103.3%の1,746,919人回。

県北エリアのみ入り込みが増加している。実人数は1,327,331人回、前年の102.3%。

観光消費額は12,588,700万円、前年の100.2%。

このうち観光目的の日本人は同116.5%の6,954,900万円。ビジネス目的の日本人は同111.6%の5,633,800万円。訪日外国人は0円。

## 秋田県



秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課「秋田県観光統計」から（平成23年から調査方法を観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づいて変更したため、平成22年以前のデータとは単純比較できない）

入込客数（延べ人数）は187,378人、前年比102.1%、約38万人の増加となった。このうち観光地点は同102.9%の1,775,555人。行祭事・イベントが同98.5%の98万3千人。

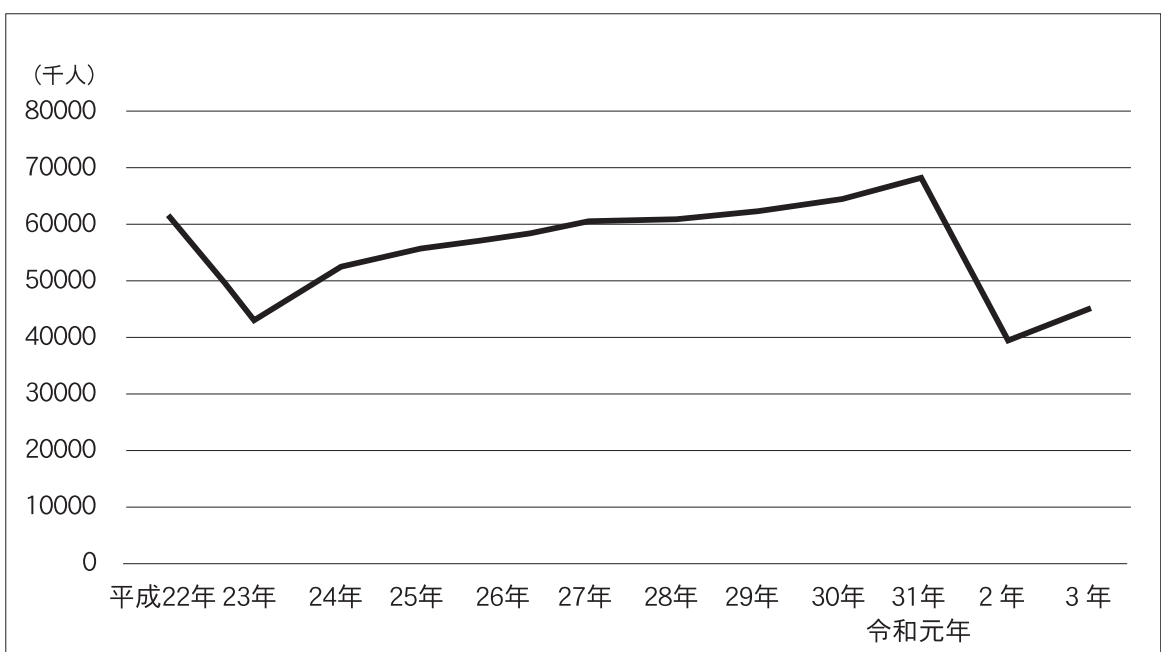
前年野並み中止となった4、5月の桜まつりが規模を縮小しながら開催できたところが多く、一定の入り込みがあった一方で、2月の小正月行事や8月の夏祭り、花火大会等が新型コロナウイルス感染症の拡大により中止されたことなどから、行祭事・イベントの入込客数は減少した。

一方、入込客数の実人数は121,772人と推計。このうち観光目的の日本人は107,377千人。ビジネス観光目的の日本人は43,391人。訪日外国人は9千人。

延べ宿泊客数（全施設）は262,276人で、前年比103.1%、約89万人の増。このうち県内居住者は109万1千人で、前年比約20万人増加（102.3%）。県外居住者は152万人で、同約7万人減少（95.4%）。外国人は約8千人で、同約1万7千人減少（92.0%）。

観光消費額は997億円。このうち観光目的の日本人は6,633億900万円。ビジネス観光目的の日本人は3,639億900万円。

## 宮城県



宮城県経済商工観光部観光政策課「観光統計概要」から

観光客入込数は44,947,666人と、前年比54.9%の8千人、13.9%増加した。NHK連続テレビ小説や三陸沿岸道路の全線開通、イベントの再開などによる誘客が要因と考えられる。また、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年比は約7割にとどまる。

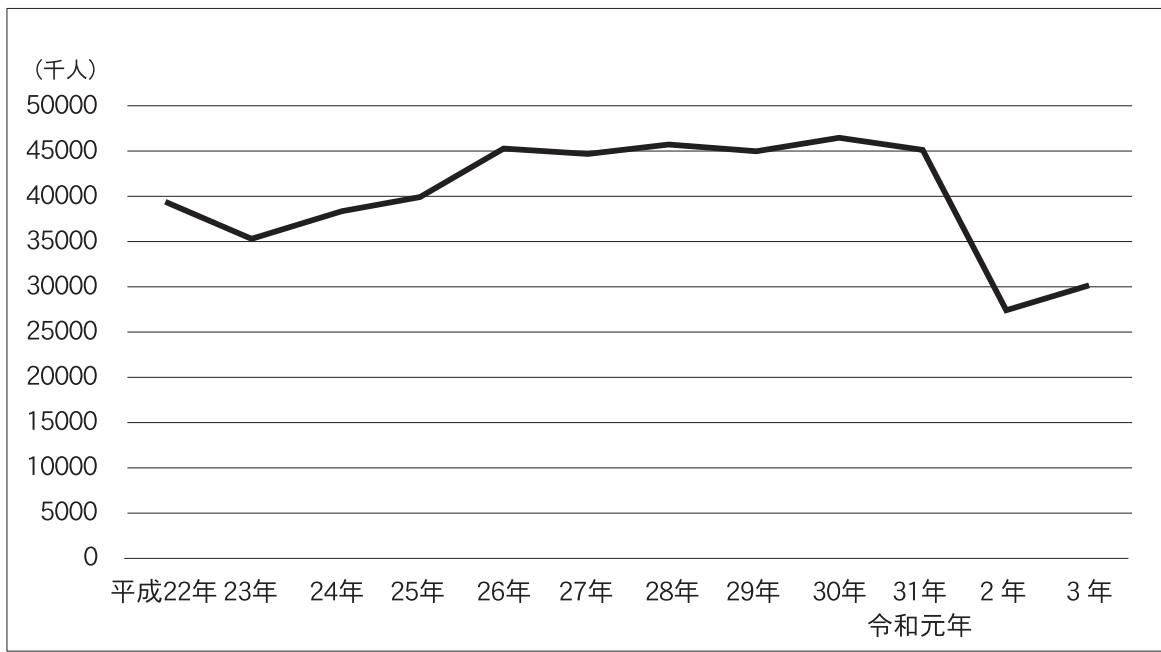
圏域別では仙台圏域（旧仙台市、松島地区など）が同24.9%増の2,331,476人。大崎圏域（鳴子温泉地区など）が同4.9%増の62,677千人。仙南圏域（蔵王地区など）が同3.5%増の5,077千人。石巻圏域が同8.1%増の3,842千人。気仙沼圏域が同22.9%増の2,755,519人。登米圏域が同12.2%増の2,754,419人。栗原圏域が同3.7%減の1,311千人。

季節別では春（4～6月）が同60.6%増の1,026,111人。夏（7～8月）が同26.5%増の920万人。秋（9～11月）が同4.0%増の1,243,979千人。冬（12月）が同5.6%減の1,304,475千人。

宿泊観光客数は584,333人泊で、同0.4%減少。

観光消費額は直接効果額は26,244億100万円。このうち観光目的の日本人は175億1千万円。ビジネス目的の日本人は972億900万円。

## 山形県



山形県観光文化スポーツ部「山形県観光者数調査」から

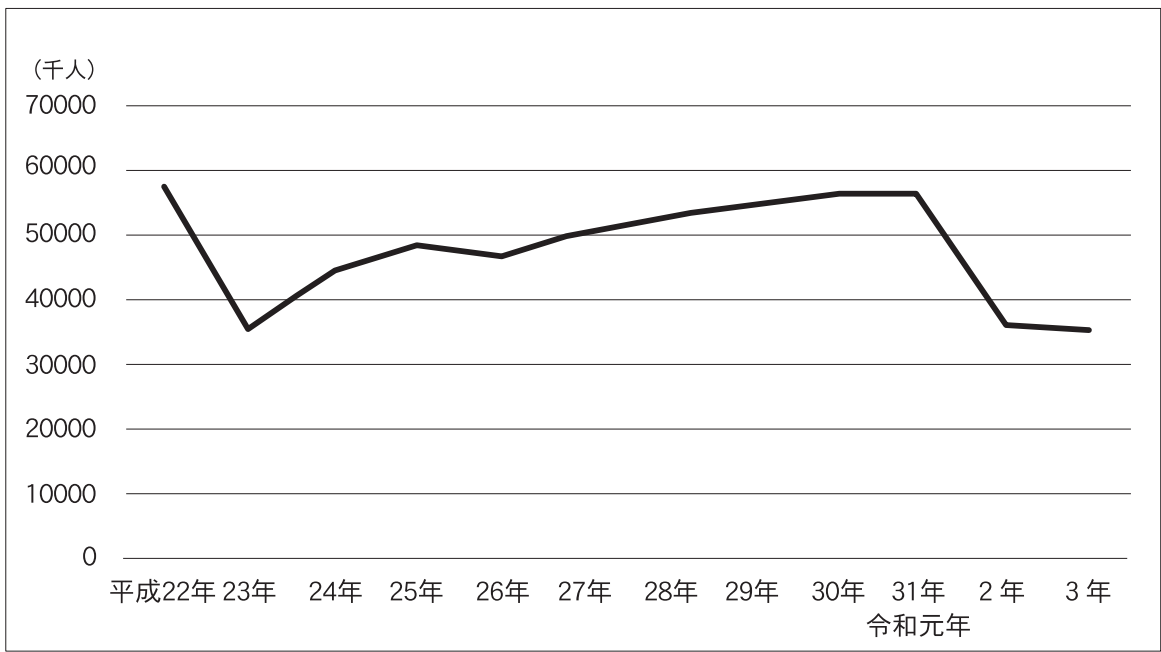
観光者数は約3,005,999人、前年度と比較して約254,488人増、率にして109.3%となった。県内での宿泊・日帰りの旅行の割合は、インや東北・ステーションキャンペーンの展開による誘客の促進などで3万人を上回ったものの、コロナ禍前の水準には戻っていない。

観光客を県内客、県外客別にみると、県内客は約1,838,899人（対前年度比117.7%増約192万7千人増）、県外客は約1,167万人（同5.6%増約62万1千人増）。

月別の対前年度増減は、4、5月が2年度にあった観光施設等の休業要請等が一部緩和されたことに加え、東北デスティネーションキャンペーンの展開等により大きく増加した。8～11月は前年度に実施されたGo To Travelキャンペーンが3年度に実施されなかった影響等により、2月はまん延防止等重点措置の同県適用等の影響により減少した。

4の地域別では、全てが前年度から増加した。最も多い地域は村山地域の約1,349,222人（対前年度比11.0%増）。次いで庄内地域の約870万人（同8.2%増）、置賜地域の約625,355人（同7.4%増）、最上地域の約1,627,514人（同7.8%増）。

## 福島県



福島県商工労働観光部観光交流局観光交流課「福島県観光客入込状況」から

総数は3,545,474人、前年比2.0%減（23万7千人減）となった。震災前の平成22年対比は38.0%減（224,672千人減）。

県内3方面では中通り地方が最も多く、1,629万8千人。次いで会津地方が1,822万8千人、浜通り地方が732万8千人。前年比で中通り地方、会津地方は減少（1.4%減、6.2%減）、浜通り地方は増加（3.9%増）している。震災前の平成22年対比は中通り地方が26.6%減、会津地方が37.2%減、浜通り地方が54.6%減。

7の観光圏域別では、会津が102万2,878人（対前年5.6%減）と、全体の約3割（28.8%）を占める。次いで東北の971万9千人（同2.8%減）。対前年増加しているのは相双（351万5千人、同27.2%増）、県中（825万3千人、同2.4%増）の2圏域。

震災前の平成22年対比は、全てが減少。いわき（64.6%減）が最も大きく減少している。このほか南会津が56.6%減、県中が45.5%減、相双が34.7%減、会津が32.5%減、県南が30.9%減、東北が11.0%減。

月別では1月が前年より38.5%減、8月が23.7%減と大きく減少している。